所沢市議会政策研究審議会会議記録（概要）

平成２８年１１月１０日（木）

開　会　　午前１０時２分

１　開　　会

荻野副議長　これより、第２回の政策研究審議会を開会いたします。

２　議長あいさつ

中　議長　政策研究審議会の開会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は風も強いようでございます。本当にお寒い中、またお忙しい中、こうしてお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

去る７月２６日に第１回の審議会を開催いたしまして、議会からは３件の諮問をさせていただきました。

余談になりますが、この政策研究審議会は、行政に関する情報誌「月刊ガバナンス」の１０月号で取り上げていただきまして、この件で他の議会からの視察もあるなど注目を集めているところでもあります。

本日は、その諮問に対する答申をいただけるということでございます。また、そのあとは、議員との意見交換の場を設けていただきました。ご審議いただくことはもちろんですが、あわせてコミュニケーションを図り、委員会の審議に反映されることはとても重要なことだと思っておりましたので、ぜひこの機会にそれぞれのお考えをすり合わ

せるといいますか、認識を共有できればと思っております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

３　議　　事

（１）答申書の提出について

会　　長　　去る７月２６日の第１回審議会におきまして、中 議長より３件の諮問がございました。あらかじめ各委員はその内容について吟味され、当日は短い時間ながらそれぞれのお立場からのお考え、ご意見をいただきました。それらをもとに、私のほうで整理しましてまとめたものを、事前に皆様にはご確認いただきましたが、本日お手元に答申書（案）という形でお示ししています。

本日お集まりいただきましたこの場であらためて皆さんに本案をお諮りしまして、ご承認いただきましたものを、議長さんに提出したいと思います。

本案をもって答申とすることでよろしいですか。

（委員異議なし。）

それでは、中　議長に答申書をお渡ししたいと思います。

（西村会長より中議長へ答申書を手渡す。）

（答申書は、別添のとおり。）

中　議長　　ありがとうございました。

	しっかりと答申書を受けとめさせていただきました。この答申をふまえまして、それぞれ所管の委員会において課題に取り組んでまいります。
会　　長	本答申は、基本的には７月の会議においてお話しした中から、今後の方向性をお示しした形です。 各委員長さんのほうからは、いかがでしょうか。
島田総務経済副委員長	私たちの委員会のほうで考えていたような答申をいただけたと思っておりますので、引き続き連携を深めて、大学生の消防団への入団促進について協議して一歩でも進めて行けたらと感じたところです。
福原議会運営委員長	現行のフォーマットではなかなか評価するための情報量が十分ではないというところについては、大変貴重なお言葉と認識させていただきました。今回はかなり試行的な思いもありましたので、まずは流れをしっかりと継続させていただき、そして、今後審議会、また議会運営委員会の中で、議会全体としての意思疎通を図りながら、フォーマットの見直し、これを丁寧に議論して、それから市民参加も頑張ってまいりますので、よろしくお願いいたします。
小林広聴広報	広聴広報だけではなく所管の委員会とも連携してといったところ

副委員長　もありました。総務経済常任委員会になりますが、そちらとも連携してやっていきたいと思います。

西村会長　この後、議会において内容を共有していただいて、各委員会等で更に議論していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、審議会への御質問等ありましたら、その都度お答えしていきたいと考えています。

（2）議員との意見交換

西村会長　私たちが審議をより深めるためには、議会のこと、議員さんたちのことをよく知り、情報を共有させていただきたいと思いまして、本日は議員の方々との意見交換の場を設けさせていただいております。

初めに、本日お出でいただいている議員さん方から、所沢市議会のこれからの進む方向、課題などをどのようにお考えなのか、ぜひ伺わせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

桑畠議員　所沢市議会にとって最大の課題というのは、議会制民主主義とか地方議会というものが、非常に厳しい批判に晒されています。それは主に政務活動費を中心としたものですが、その背景には、「なんかいらないんじゃないの」っていう、我々自身の存在そのものが脅かされて

いるという危機感を少なくとも私は持っていて、一方、内部にいる人間からすれば、相当行政に対する牽制機能とか課題抽出機能という意味では、なかなか市民の皆さんにとっても、すごくいいものであるというふうに考えています。一番わかりやすい例として、適切かどうかわかりませんが、例えばエアコンの問題であったりすれば、それはやっぱり議会が媒介となって、ある種いい議論ができたかなぁというのがあります。ところが、なかなかそれが投票率にも反映しないという、そういうもどかしさを感じています。４０パーセントということですから。その辺をどういうふうに議会として打開していくかということが求められていて、一方でこういった審議会を作るっていうこともそうなんですが、議会そのもののフォーマット、先生からもご指摘いただきましたが、今世上行われているフォーマットとずれがあるわけですよね。当たり前のものを当たり前のように議会も実現していくかと、そういうような意味で言えば、中だけの議論にとどまらず、こういった機会をいただきながら。議会評価はまさしくそうだと思うんですね。そういった点をぜひともご提言いただければと。その辺の危機感は皆さん共有していると思うんですよ。存在そのものの否定段階にあるということを、やっぱりどう打開していくかっていうことが、私としては率直に危機感を持って考えているというところです。

13:40

西村会長　　確かにコンプライアンスは、大学でも会社でもそうですし、もちろ

ん議会でもそういうことであります。その背景に、何をやっているのか分かりづらいというところが、大きな組織になるとありがちであるということだと、やはり、一つは広報が大切だということと、あとは確かに開かれた議会運営をなさっていることもよく存じ上げておりますけれども、ただ開くだけではなくて、何か積極的に市民の皆さんにアプローチしていくというか、そういう機会がないと、ドアを開けていらしてくださいって言っても、なかなか来てくださらないということもあるんじゃないかなぁと考えています。様々な市民と触れ合う場で、何か実質的な意見交換あるいは要望を受け入れるような場があればいいんじゃないかとは思っています。もちろん、そのような努力を散々されていることを知った上で、何かまた新しい手段を考えないといけないところに来ているんじゃないかなぁという気がしています。

いかがでしょうか。今後、開かれた議会だけではなく、何か前向きに、積極的にアプローチしていくというか、市民の意見を待つだけではなくてですね、市民に触れ合うというか、そういった方向性があってもいいんじゃないかなぁと思っていますが、なかなか難しいとは思いますけれども。

小林広聴広報副委員長

どうアプローチしていくかということですけれども、ここで、広聴広報委員会で行ってきたことをご報告させていただきたいと思いま

す。

議会全体、議会改革ということで、市民への議会報告会を年４回開催してきたわけですが、今年、広聴広報委員会が中心となりまして、新しい試みということでワールドカフェ方式による市民との懇談会を開催しました。若い人を含め年代別に広く参加していただくこと、いろいろな意見を言い易い場とするといったことをポイントに、視察により手法を学びながら、無作為抽出による参加者募集なども行いました。グループ分けをした中に議員が入り、議員はなるべく意見を言わないよう、皆さんが意見を言い易いよう、ということで率直な意見を述べていただいたということでございます。初めてのことで、普段は相対するというような関係であったりもするわけですが、市民と接することができたこと、意見も言い易かったというようなことで好評はいただいているところです。

西村会長　触れ合う機会ということですけれども、例えば今回答申させていただいた、消防団、大学生による教育プログラム、つまり私の身近なところといいますと大学生ということになってしまいますけれども、そういった学生を市政にかかわらせていただく、その中で実際こういうことをやられているんだということを理解していただくというような取り組みの一つにもなるんじゃないかなぁと思っています。非常によいことだと思います。こういった機会を様々な場面でいろいろと大

学としてもお手伝いできることもあるだろうし、あるいは私も住民としてお手伝いできることがあるんじゃないかなぁと考えています。こういった機会の中で意見を出していただいて、また更なる方向性について議論を深めていけばよいのかなぁと考えております。

この審議会はできたばかりで、附属機関として設置されているわけですが、逆に議員の皆さん方は、この審議会にどんなことを期待されているか、求められているかということを伺いたいなぁと思っております。早稲田大学とはパートナーシップ協定を結んでいて、これからいろいろ具体的なことに入っていくと。今回の答申に書かれていることもその第一歩だと思っております。そのほか研修に関してお考えの議員もいらっしゃると思いますので、この点、当審議会にどんなことを期待されているかということを伺いたいと思いますけれどもいかがでしょうか。

島田総務経済副委員長

先ほど桑畠議員からも話が出ていましたけれども、議会のあり方というのが非常に市民の方と乖離があって、議会不要論であるとか政務活動費、あとは会期の問題ですとか。例えばこの間のワイドショーなどを視ていても、四定例会で実質数カ月なのにこれだけの議員報酬を貰っているんだ、という議論なんかも出てきているわけですね。私たち議会の中でも通年議会の話とかいろいろと出てはいるんですけれども、まだ議論の途上というところでありまして、一つは審議会を通

して客観的な議会をどういうふうに市民目線、市民の皆さんから見られていて、またどういう点を改善していったら市民の方との信頼関係を築けるか、強化できるかというような具体的なご提案ですとか、そうしたものなんかをいただけたら今後の議会改革により活かせるんじゃないのかなぁというふうに思っているところです。

廣瀬委員　市民との関係、そして議会が現に果たしている機能をそもそもうまく伝えられていないのではないか。あるいは不可欠な存在だという意味を受けとめていただけていないのではないかというご指摘がありました。それをより客観的に説得力を持って伝えるための一つの方策としての審議会の外部の目から見ての評価であったりということなんだと思いますが、おそらくもう一つの視点として、どういうようなターゲットに対してどういう経路を通ってアプローチをするかということを市民全体に一括してということではないアプローチをしないとなかなか難しいという現実に直面されているんではないかなというふうにそういう点では思います。ちょうど今週の月曜日に総務省主催の地方議会活性化シンポジウムというのがございまして、コーディネーターをさせていただいたんですが、そこではいろいろな議会が１８歳選挙権の導入にあたって、学校という入口から、地域に所在する学校という入口から、どういうふうに将来、いや１８歳であれば現有権者、若い有権者に、地元の議会というのが地域の課題をどう実際

に扱い、どんなふうにそれをよい方向に導いていくための役割を果たしているかということについて、実感をもって受けとめてもらうための学校との協働の取り組みが全国からいろいろと報告されました。そこで非常に印象的だったことが二つありまして、市民の方にぜひ議会報告会来てください、あるいはみみ丸カフェの場合であれば無作為抽出で招待状をお送りになってそれで反応してくださる方が来られたということなんですが、学校というのは逃げ場のない社会で、学校のプログラムに組み込まれるということは、生徒たちにとって学校生活というのは自分の少なくともプライベート以外の生活の中の大半を占める、その場に、言わばもう自然なこととして地元の市議会とコラボレーションをしたキャリア教育や主権者教育というプログラムが入っていて、そんな中で、例えば模擬選挙やってみるとか、そういう試みが全国で点々と存在し始めているということ。関心のある生徒もいれば、嫌々やっている生徒もいるという中で、しかしその全員がそのプログラムには参加をするという構造の中で、ここにこういう市議会という存在があって、こんな役割になっているんだということを、関心の強弱にかかわらず、まず少なくとも知っていただくというのは非常に有効なアプローチなのかなぁと思って見てまいりました。もう一つ印象的だったのは、１８歳選挙権の導入ということをきっかけに主権者教育という概念を文科省が明確に打ち出して、その結果何が起こるかというと、おそらく学校というのは政治的中立という基本的な

原則の下にあると。しかし一方で文科省から、今のカリキュラムの中で主権者教育には力を入れるべきであるということも出てきていて、その両立の仕方として、機関としての議会がしっかりと学校や教育委員会との間の協定などを結んで、どういう考え方によって主権者教育をお手伝いするかということを位置づけると、かつてないぐらい門戸は開いていると。従来、やはり学校というのは政治の現実というものに対してはできるだけ掲揚しておきたいということであったのが、やはり教育制度の中で明確な位置づけがあり、先進的なことやるとそれこそ文科省から補助金をいただけたりするという構造の中では、学校現場のほうの風向きが大分変っているということをじつぜんされていた各パネリストが変わらず皆さん強調されていました。これは所沢市議会にとっても同じ環境が周りには整いつつあるということですので、こういう機会を活用されるというのは一つの、今回の答申の中の最後のものの中に触れてくるものかと思いますけれども、地元の高校生そして地元の大学生や地元の高校出身でどこかの大学へ通っている者たちを、若者たちの間でも世代間繋ぎながら、議会がサポートをして、実感を持った主権者教育をやるっていうのは非常に、こう、魅力的なアプローチの仕方かなぁというふうに思った次第です。

西村会長　　まったくそのとおりだと思いますね。確かにいろいろな学校教育、公教育と議会、政治のところが、いままで中立性ということを理由に

して我々も腰が引けていたところがあるんですけれども、やっぱり１８歳で選挙権を持つ若者たちに、いろいろなことをした上で投票行動に移っていただきたいとは思っています。一つは、廣瀬先生がおっしゃったように様々な試みが起こり始めた、なされ始めたというところで、そういったところをまず精査していくというか、知っていくというところから始めていく。うまくいっているところはぜひ取り入れていただければなぁと思っていますが、いかがでしょうか。

島田総務経済副委員長　私たち総務経済常任委員会で、今、１８歳選挙権と期日前投票所の増設が必要ということでいろいろ視察させていただいています。この間は愛知県豊田市に行きまして、市内にある大学と選挙管理委員会との連携を視察してきました。その前は、長野県長野市の信州大学に行きました。信州大学も選挙管理委員会と協定を結びまして、１８歳選挙権に伴っての投票率向上の取り組みを行っています。そういったことを視察してまいりましたので、今後、より一層大学との連携ですとか、投票率向上は非常に重要な課題だと思っていますので、それについてどういうふうに投票率アップができるか、投票所の増設等も含めて、そういったことも視察してきたところです。

桑畠議員　さはさりながら、やっぱり議会が直接乗りこんでいって、私が行って、やると、お前の評価席だろってなるんですよ。大学との連携って

すごく良くて、前回のワールドカフェの時も、だから議員はまとめ役にならずに早稲田の先生と学生さんにやってもらうと。だからその時も、多分主権者教育の時も、やっぱり我々と大学のやる方が話す、やっぱりやるのは大学生とか大学がやるっていうのが、今のところの最適解だと思うんですよね。そういうところでぜひお願いしたいのは、プログラムをつくっていただいて、我々と学生さんと話すのはいいんだけれども、やっぱり表には出ないけどっていう形をぜひご協力いただければなぁという気はすごくしているんですよね。

西村会長　個々の議員というより、議会という全体がうまく市民に協調できるような懸け橋として大学に期待するということです。いろいろと方策を私も検討させていただきたいと思います。

後は、例えば高校、市内には県立高校が数校あって、私立高校もありますけれども、高校との連携というのは具体的には始まっているんでしょうか。

荻野副議長　特にしっかりしたものはないんですけれども、ワールドカフェの時に、１８歳選挙権の関係がありましたので、ぜひ高校生にも来ていただきたいということで、前委員長であったものですから、市内に６校県立高校がありまして、お願いには伺ったんです。それでなかなか、先ほどお話が出ていたように政治的中立性の話があって、協力してい

ただくのが難しかったところがあるんですけれども、その中で芸術総合高校というのがあるんですけれども、元々議会の定例会のポスターに使う写真を提供していただいた関係があったので、なんとかお願いできないかということで、２名出していただいたんです。それで、今度また１２月の定例会の初日に、議場でのコンサートなどもお願いしています。特に協定みたいなものはないんですけれども、少しづつそういったことはやってはいるんですけれども、できればまたワールドカフェとかそういうような機会があれば、もっとそういうものに市内の高校だけではなくて市内在住で市外の高校に通っている学生さんとかそういったところにもなんとかアプローチできないかなぁっていうことは考えています。

西村会長　早稲田大学も近隣の高校とは連携を深めていろいろな講演とか事業とかやったりしています。地元にいるというところで、うまく地元色を活かして、大学だけではなくて高校、中学と連携できたらいいなと思っています。

長谷委員　市民の関心がどこにあるかということを考えますと、今まで話された教育のことについてはいろいろ市議会のほうで今までやっておられる。私の関係は医療になりますが、所沢市の医療状況がどのような感じになっているかということがあります。市民の皆さんは健康、例

えば寝たきりになった時にどうなるかといった医療面についての関心もかなり強いかと思います。医師会がありますし、厚生労働省や県の所管のものもありますし、その辺の現状はどんなものかなというところです。例えば、産科では所沢市の中での協議会がありますし、救急は救急であります。医師会を中心にしっかりとやられているとは思うんですけれども、そこら辺と議会がどのようにこれまで関与してこられたかというところが知りたいです。

西村会長　基本は市にある機関と議会の関係を活発化するということで、我々住民にとっては医師というのは非常に親密な窓口になっていただく方でありますし、その実態を議会と連携して情報を共有してということは大切だと思います。

浅野議員　子ども医療費の無料化を中学３年生まで広げたこと、市民医療センターを中心とした市内の２４時間３６５日の小児救急医療体制を整えたことなど子どもに関する医療は大変充実しているように思いますが、ただ一つ懸案になっているのは、この地域の周産期医療体制が医師の不足により停止していることです。医師会の先生方と交流ができてそういう医師をお呼びすることができたら大変市民の方も喜ぶと思います。

西村会長　確かに１８歳選挙権ということだけではなくて実は大学だけでもなく、やはり実質いろいろな我々市民あるいはここで働く者に対しては、議会、議員の皆さんこそが我々の代表であって、ともすると勝手にやっているんじゃなくて自分たちが選んだ議員だという意識をもって、その方々が我々の身近で働いていらっしゃるということが少しでもわかるような取り組み、取り組みはされていると思いますが、それを広報するということが今後さらに重要になっているような印象を受けております。

西久保委員　市民にとって、何かやっているのは市がやっていると思っているわけですよね。議員さんは直接そんなに関わってないんじゃないかということで、問題があればその問題解決のためにじゃあ議員さんお願いしようかって。具体的に言えば日常の我々の生活に関わっている問題を議員さんが市と議論しながら市民のためにやっているんだよっていう、そういう認識が意外と薄いんですよね。ですから、やってもらうのは市役所だけど、何かあった時には議員さんにお願いすれば何とかなるのかなって、そういうふうな感じがまだなかなか抜け切れてないというのが現状なんです。この間、近所の方が家庭教育の委員になったのでそういう時に何かやることありませんかねぇって相談を受けた時に、議員さんの活動などを報告することも大事だろうし、どういう関わり方をしているのか勉強する、保護者の方々に知ってもらう

と、そういう提案をしたんですけれども、なかなか難しそうなんですけれども、いずれにしても、いろんな機会を通じて議員さんとの関わり合いを持てるんだという、親しみある議会と言いましょうか、いつも身近に議会があるような環境を作れればもっといいかなぁと。私も、この間政務活動費の関係でいろいろと家族や市民の方と話が出た時に、実はこういう使い方をされているんだという、議会のことを理解している市民をどう増やしていくかっていうことが大事かなって思っているんです。何かあった時に、政務調査費も実はこういう形、例えば議員さんがいろんなサンプル調査をしたり、市民のためにいろんな活動をするために使っているんですよっていう、そういう、なんて言うか、無駄なお金じゃないっていうことを説明できる、そういう市民の人が増えてくると議会との身近な関係も深まっていくのかなぁっていう、ただ批判するだけではなくてね。お互いに理解し合うっていう立場の人が増えてくれば、私も別に批判しているわけではありませんけれども、そういう話の時に、こういう使い方をされているとか議員さんもこういう活動をされているとかっていう話をすると、議員さんから直接聞くのではなくて第３者の人からそういう話を聞くと、よりそういう理解が深まるというか、あっ、なるほどなぁと。議員さんが自分で言うと何か手前味噌みたいな感じでなかなか説明つかないので、この審議会の委員の先生方が、こういう形で使われているから信頼がおける、所沢市の場合はちゃんと領収書も取っている、

そういう一つのシステムも説明しながら、第３者が言うと、なるほどなぁ所沢市はしっかりやってるんだなぁっていう、より行動を通じて説明できると言いましょうか、だからそういう身近な一つ一つの問題を細かに説明していく人がいれば、よりもっと増えていくのかなぁと。批判するだけではなくて、お互い理解できる人が増えていくところも大事かなぁと思うんです。

自分の行動の中に市との関わり合い、議会との関わり合いを持てるような機会を一つでも市民が持っていれば、より議会に対する理解が、そんなにたくさんなくても何か一つあればいいと思うんですよ。皆さんの支持者の方々も皆さんに期待することも多いでしょうけれども、支持者以外の方にも皆さんが出向いて説明する機会、学校でもいいでしょうし。私も祭囃子をやっていますけれども、消防団の方が一緒にいまして、この間の審議会の話をしました。そういう話はありがたいよねってということで消防団の方もおっしゃっていましたので、ある面そういう結果が出たときに出向いて行って、説明する機会があれば、より身近になるのかなぁって気がします。

中　議長　　自分たちのことをそこまで考えてくれているというのが伝わってくると、そこでその存在、市議会の存在意義みたいなものがわかってきてもらえるということなんですね。

昨日、市が開催する高齢者大学というのがありまして、何年か前か

ら議長に「市議会について」というテーマで１時間程度の話をしてくださいというものですが、市議会の中身とか変遷、歴史だとかいうものをお話しさせていただいた一番最後に５分間だけ時間を頂戴して、政務活動費の今の現状をということで話をさせていただきました。後になって皆さんにちょっと聞いてみると、市議会の内容もいいんだけれども政務活動費って今所沢はどういうふうになっているかって一番興味があったよね、その話が一番良かったよって言われました。ガクッとはしたんですが、でもそれだけでもちゃんと聞き入れていただいていたんだなぁということで、今委員からお話があったように、１円単位で所沢市は昔からずっと領収書を添付していますとか、手引きをしっかりと作らしていただいて、どんな使い道があってどういうふうな共通認識を持ちましょうかということから始まっていろいろとやり方を伝えさせていただいたらそういう反応があったということで、そういうところにもひょっとしたらヒントがあったかなということを、今聞いていて感じたところです。

西村会長　　政務活動費はマスコミが取り上げてくれているので、それを逆手にとるというのもありですよね。話題になって我々市民が興味を持っているところで、敢えてそれを利用するというわけではないですけれども、いい機会で所沢の議会はこういうふうにやっていますということを言っていただければ、興味がある人たちもたくさんいると思います

からますます理解が深まっていくということで。悪い機会がいっぱいあればいいというわけではないんですけれども、悪い機会でもちゃんとしていれば逆にいい機会に使えるということだと思います。

荒川議員　私も長くやっていて、最初の頃との変わり様というのを体感しておりまして、すごい変わり様で好意に思っておりますけれども、そういう中で市民から忘れられない存在として議会がどうあるべきかことも必要なので、取り分け私が思うのは、行政と２元代表制としての議会との競争というか、どちらが市民の声を反映させていくのかという、そういうものになっていきたいと思っているわけなんです。その際一番足りないのが、政策的な分野っていうのが非常に弱いんですよね。やっぱりかなわないですよね、何千人という職員の中で議会がこういった課題にどうじゃあ政策的に打開していくのかというのは。その辺のところが足りないので、ぜひ審議会の皆さん、皆さんそれぞれ専門分野があると思いますが、どういう仕組みでそういったものを解決していくのかっていうようなところを解答してもらえればいいなぁということで思っているんです。もちろん議会事務局の機能ももっと強化してもらいたいと思いますし、何かしら行政も課題として抱えているけれども、市民にとって満足いかない問題について、議会が本当に解答を示していきたいというような意欲はあるんですけれども、ぜひ応えていただきたいと思います。

廣瀬委員

議会の議長が任命権者になっていらっしゃる職員の方は議会事務局の職員だけです。行政の職員はみんな市長が任命権者になっておられて、そこが分かれているということは指揮命令系統から全部少なくともフォーマルには分かれているわけです。その中で政策機能ということになると、まずは制度設計の話を先にすると、議員一人当たりどれぐらいスタッフがいるかというと、米国の２元代表型だと８人も９人もいるわけです。３３人いらしたら百何人とか二百何人とかいう規模の議会のスタッフがいても不思議ではないところを、今の人数でやっておられるので、その意味で言うと、議会事務局職員の強化っていうのはまだこれからもできるだけ必要だと思いますけれども、それ以外の形の議会のサポート、政策づくりのサポート体制をいろんな手段を講じながら、時の重要な、議会が主体性を持たなければいけない政策分野について、そのためのプロジェクトチームをまずは特別委員会などという形で議会の中に作っていただいて、その特別委員会が、例えば専門的知見の活用を一人ではなくて、ここは一定の予算措置が必要ですけれども、複数の方に委嘱をするというようなこともあるでしょうし、パートタイムで例えば大学院生ですとか、そういう一定の専門性を持った、それぞれの政策領域の制度であるとか、政策であるとか、そういったことに知識のある人を、専門的知見だけだと今度は実務的な手足の機能がありませんので、そこの部分を例えば嘱託みたい

な形で、専門嘱託というような形で、週数日ぐらいサポートをしてくれる専門性のあるような人を、手当てをしてというような体制を、例えば１年かけて１政策についてとるとするとどれぐらい経費がかかるだろうか。このあたり積算をしながら、少し、まぁ数年かけて予算折衝して徐々にそれを実現をしていくというような取り組みがいるのかなぁというふうに思っています。

県の市議会議長会等のもとでシンクタンク機能を強化していくのが良いのではないかという思いもありますが、これは所沢市議会だけの提案だけでは実現しませんので、その意味では県内の市議会が一丸となって、もっとこれが必要だという機運が出てこないと、実は共同でのそういう機能の強化というのはなかなか実現はされていきにくいのかなぁとみています。ですので、所沢市議会の範囲の中で何であればできるのかということを少しづついろんなアイディアについて、この政策についてはここのところの専門性を補ってくれる人がいると非常に役立つので、この分の予算はぜひ対応をお願いしたいとか、そういうような形で一定の予算確保と体制整備というようなことが必要なのかなぁと。そういうこと全体をどういうふうにしていけばいいんだろうかというようなことについての知恵出しのような、親委員会という位置づけではないですけれども政策機能を高めるためのシステム作りのようなことについては、例えばこういう場を活用していただくとか。ここで検討してこんな体制取ったらどうだという答申

は、一つのそういう予算措置を獲得するための説得材料の一つとして使っていただければ、少しお役に立つのかなというふうに思うところです。

島田総務経済副委員長　早稲田の大学院の方などがインターンで例えば所沢の社会福祉協議会に行かれたりしていますけれども、この関係の人件費はどのようになっているのですか。

西村会長　いろんなパターンがありますが、研究の一環として学生を参加させる場合は科研費等の研究費の中から時給にして一般的時給ぐらいが出ていると思いますし、あるいは完全にボランティアの場合もありますけれども、多くは学生が自分の論文を書く体験の場としてとらえるケースがあるので、そこそこのバイト費は出ていると思います。ゼロということはないと思います。活動する場合は保険が一番で、事故があるといけないので、そこは大学が出したり受け入れ先の機関で協定を結んだ中で保険条項が書かれている場合もあります。我々としては、安心して学生をインターンの体験をさせたいと思っています。実際、市との連携では、健康福祉科学科がありまして老人介護とかその辺の専門家が大勢おりますので、ますますそういった体験を学生たちに積ませるとともに我々も一緒になって新たな提言等ができるかなとは思っております。

浅野議員　市議会だよりを市民の皆さんに見ていただくのに、現在は新聞折り込みで配布しています。それを各戸配布のポスティングで行いたいということで予算措置をお願いしていますがなかなか措置されません。また、議場の傍聴席は高いところにあり議場の様子があまりよくわかりませんので正面にモニター設置を計画しましたがそれも実現していません。先ほど委員のほうから審議会も役立ててほしいといったお話がありましたけれども、ぜひこういった具体的な実際の様子もご覧になっていただきご審議いただければ非常にありがたいことだと思います。

西村会長　私たちも実際を拝見させていただいたり、自身もまだまだ勉強しなければいけない話だと思っていますが、そういう機会があればぜひご紹介いただきたいと思います。

桑畠議員　今回の地方創生がいつまで続くかわかりませんけれども、非常に画期的だったのは、今まで産・官・学ということでやっていたそこに地域の医療機関とかいろんなものが入って地域課題を解決しましょうということなんですが、所沢はおかげさまで今日正に来ていただいている早稲田大学とか防衛医科大学とか、今度日本光電とかも来てですね、それなりに立地上は上から俯瞰するといろんなリソースがあるん

ですけれども、ほとんど物理的に近接していても、要するにケミカライズされていないというか化学的な触媒機能が全く機能していないっていうのがすごく課題としてあって、だからなんとか次とか次には、議会としてカタライズ要するに融合して、新しいゾーンみたいなものを創っていけないのかなあっていうのがすごくあるんですね。やっぱり少なくとも単純に見ていくとここの医療・福祉資源ってすごい高度なものがあるわけですよね。実際、例えば防衛医大と早稲田とかも全然連携がないわけですね。老年医学とかそういうのはですね。どうなんですか。しかも人間科学部はドクター持っている先生もたくさんいたりして、日本光電もあって、何かこう、全部バラバラで、市が主体になってやるんじゃないんだけれども、何かこう、コンソーシアム的なものってないじゃないですか。これだけ高等教育機関が立地しておきながら全くそういうのを。簡単に言えば、念頭においているのは筑波なんですけれども、結局その外側にコンソーシアムがあって、少しスピンアウトして起業しようみたいなね。全くないんですよね。これどうなってんのかなぁと思っているんです、私なんかはいつも。これ、議会から提案したいってすごく思いがあるんですね。

西村会長　　例えば昨年、市と日本光電と早稲田大学が３者で協定して、健幸所沢マイレージのお手伝いをしていますけれども、あれはやっぱり市のほうからお声掛けがあったんだと思います。確かに所沢地域というの

はすごく稀有なところで、リハセンがあったり防衛医大があったり、それから国立病院があったり、資源はすごくあるんだけれども確かに特にあるだけで、それは有機的に結合すべきだと思っていますし、我々そのために大学のほうの委員会、学内外の連携の委員会というのを立てて、これからやっと体制が整ったというところで、ぜひご紹介いただいてというか、だれが音頭を取っていくかと。

桑畠議員　　そうなんですよね。そこが我々もよくわからなくて、どういう形でそれを、まあ議会が一つの旗振りになれるんならそれはそれで、と思うんですが。すごいリソース、他にはないんですよ、県内でもここまでの。さいたま市は医学部もないのに医療工学で会社を設立しようとしているんですよ。医療資源は何もないのに。こちらは日本光電まであるわけですよね。何なのかなぁといつも思っていて、その辺は逆に、これからぜひとも私たちとしても何か提案、正直なところはよくわかりませんけれども、そういうことでお願いしたいなぁという思いがあります。

西村会長　　ぜひ私どももそれにご協力したいと思いますので、この審議会とは別に政策立案のグループ、ワーキングとかを行って、より良い所沢に向けて提言するという。

桑畠議員　特に所沢市の機会損失というのは、学会が開けない点でしょうか。防衛医大にしても早稲田大学にしても。結局なぜかというと、宿泊施設もないから。だから、学会をもっと開けるはずで、一時期防衛医大さんが若干ミューズを使って学会とかを開いてらっしゃるんだけれども、学会ってすごい経済波及効果があるんですよ、ＭＩＣＥというんですけれども。それで人が集まってくる、人が動く、みたいなことって、もっと便利だと思いませんか。

長谷委員　これは、普段いつも困っています。所沢というと駅前にビジネスホテルしかなくて、研究会レベルを開ける施設があれば、わざわざ大宮まで持っていってやる必要はないんですよね。

桑畠議員　だからそういうのもあると、やっぱり学会握ると覇権が握れるじゃないですか、主催したりすると。そういうのも含めて、だれもコントロールしていないんですよ、うちは。その辺も逆にお聞かせいただいて、議会が、あぁそうですね、みたいにして代弁してここに出すみたいなことというのがあってもいいのかなぁと思っているんです。先生たちにとって、学会が開けないまちってダメだと思うんですよね。

西村会長　変に交通の便が良いので、結局池袋に泊まって３０～４０分で来れちゃうっていうところがありますね。ただ、学会のリソースは、実際

いくつか開いてはいるんですけれども、確かに学会を開くとなると宿泊施設というのはいつも問題になるところです。卒論の発表会でさえも、我々ｅスクールを持っていて社会人の方々でも卒論発表は義務で今年もしなければいけないんですけれども、そうすると全国から来るんですけれども、もう近くのホテルには入れないっていうような状態になっています。

桑畠議員　議会がわからないなりにまとめて、訴えていくみたいな形。役所がやればそれはそれでいいんだけれども、そういう感度はないんですよ、正直言って。全然やってこなかったまちなので。来る人を捌くマチだったので、自分たちで創っていくっていうことをしてこなかった、幸せなまちなんですね。勝手に来るのを捌くだけで生きてこられたまちなんですけれども、本当は、もうちょっとそういうのをって思ってるんですよね。

西村会長　本当に具体的課題あるいはできそうなことっていうのはたくさんあると思うので、意見交換、交換するだけでなく具体的な動きがあれば何かこう、先ほど出ていたようなコンソーシアムだとか、あるいは実行部隊のワーキングチームとかっていうことで、本当に連携が具体化できれば。そういうことも次回以降、提言、答申等で扱っていただこうと思います。

長谷委員　うちにも、ＭＥ（臨床工学）とかありますし、いろんな研究をやっていますので、お互いがどんな研究やっているかという内容がわからないところもありますので、その辺がわかればいろいろ連携してできることもまだいっぱいあるんじゃないかと思います。

西村会長　ぜひこれをきっかけに我々同士のコミュニケーションを図る、そういう意味で非常に良い機会を与えていただいたと思っております。

桑畠議員　会長の学校は、国リハとは連携されていますか。

西村会長　しようとしてお伺いしましたが、お宅さんだけじゃないですから、といって断られました。

桑畠議員　我々もよく言われます。ここは、所沢市の機関じゃないんですって言うんですよ。

長谷委員　うちとは仲がいいですけれども。同じ国立同士で、大分防衛医大からも支援もしてますし、外来とかいろんなものの支援をしています。

西村会長　うちの学術院長が非常勤講師で教えには行っていて、個人的な付き

合いはあるんですけれども、提携をしませんかと言うと、なかなか上が許可してくれないという。本当に地の利はいいですし、防衛医大、早稲田大学、同じ市内ですし、我々も介護ロボットだとかリハビリ機器だとか、研究員が３、４名おりますので、連携ができたらいろんなことができるものと考えています。もったいない。

桑畠議員　あそこの基地が、多分、ある程度柔らかくなって還ってきたら、やっぱりあそこはリサーチパークが一番いいんですよね。あそこにそういう、せっかく防衛医大、国リハ、で早稲田もちょっと一部移ってきてもらって、あそこにリサーチパークを作って共同研究をやったりとか、起業家育成みたいのをするっていうのが、これ、常識なんですよね、世界の。起業というか産業振興のね。こんなにいい場所は他にないのに、マンションとかをここに作られては困るんですよね。その辺逆にどういう形がいいんでしょうか。

西村会長　まさしく、高齢福祉医療、介護っていう一番我々が直面している、対応しなければいけない課題を中心とした施設はもうすでにあるんです。だから、そこを集中的に組織化するということが、非常に今やるんだったらそれだと、いうことですね。ぜひ、移転、土地さえあれば可能だと思います。

桑畠議員　他のところではどうやっているんでしょうか。他の集積しているところでは、誰がどういうふうに、こう、やっていくんですかねぇ。間に入ってとか。

西村会長　間に入っているのは誰なんでしょうね。どこかから話が来てという形ですけれども、基本的にはやっぱり、活発な先生がまず個人的な付き合いを持たれて、そこからじゃあどういう手続きでしましょうかというと大学の事務に入って、そうすると委員会で諮って、じゃあ積極的にやりましょうっていう形になるので、実は割と簡単にできると思います。ただ、そのきっかけが誰がやるんだってわからないというところがあるんですけれども、実は一言おっしゃっていただいて、そうしたらその伝令はいつでもありますので、それに合わせて協定を結んで、協定を結べばもうその中の目的があってそれに沿って調整していくっていう形になります。最近では、海外、この前広州に行って、広州の大学と協定を結んでまいりました。国内の機関とも、そのターゲットとしてリハセンがあったのですが断られてしまいまして、そういう提携はできますので、それこそ個人的な結びつきからお声をかけていただければ、我々先方の方々とお会いして、調整して、提携をしてということは、十分可能でございます。ぜひお話だけでも持ってきていただければ。

桑畠議員　議会で何か。箱物がいいですよね、みんなわかりやすいのがこういうリサーチパーク、こういう施設を作るみたいに言うと、物として見えるといいですね。

議会としても、提案をするような形で。またアドバイスをいただきながら。

中　議長　所沢の魅力の発信になるかもしれない。健康寿命とか元気とかいう言葉がよく使われていますから、所沢に住んでいると何かその効果が感じられるよっていうようなものが求められているって感じです。

西村会長　本日の意見交換はここまでとさせていただきたいと思います。このような意見交換については、今後も機会があればお願いしたいと思います。

審議会は、諮問に対する答申という形だけではなくて様々な、今回具体的なお話も出てきそうでしたし、アドバイザー的な役割も果たさせていただきたいと思いますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

（3）その他

西村会長　事務局から何かありますか。

議会事務局　今年度このあとは、いただきました答申を議会・委員会で活用して

いくことになりますが、来年度に向けた運営につきまして、事務局よりご説明申し上げます。

本審議会を活用した政策形成イメージ図を今年４月の議会運営委員会でご確認いただきました。そちらにもありますとおり、来年度の諮問にあたりましては、今回のような委員会からの提案に加えて、市民等からの提案に基づく審議事項について、この審議会でご審議いただく道筋を整えていくといった方向性が示されております。詳細は今後議会運営委員会などで協議の上まとめていくことになりますが、今年度中に募集の方法などを決定、告知し、来年度早々提案募集、審査を経て、諮問事項としてお諮りする場合も考えておりますということで、ご承知おきいただければと存じます。

西村会長　よろしいでしょうか。

他になければ、議事をお返しします。

荻野副議長　ありがとうございました。

以上をもちまして、政策研究審議会を閉会いたします。

閉　　会（午前１１時１８分）